

伊賀市多文化共生指針

(資料編)

1. 外国人住民の国別、在留資格別データ

(1) 国別人口及び割合 2020年12月末

上位3か国の在留資格について(ブラジル、ベトナム、中国)

(2) 三重県内の市町別外国人住民数の割合(割合の高い上位10位)

(3) 言語について【国別公用語上位10位】

2. 外国人住民の地区別データ

(1) 住民自治協議会別 外国人住民数が多い上位10位

(2) 地区別人口構成

3. 外国人住民等の声(ヒアリング調査等)

- 2017年度外国人住民との情報交換会&交流会
- 2020年度外国人住民等へのヒアリング調査

4. 2019年度外国人住民アンケート調査結果(抜粋)

5. 2020(令和2)年度伊賀市まちづくりアンケート(市民意識調査)

調査結果報告書「多文化共生」について

1. 外国人住民の国別、在留資格別データ

(1) 国別人口及び割合

伊賀市の総人口(人)	89,771	比率	
伊賀市外国人人数(人)	5,575	6.21%	(2020年12月末)

順位	国籍	登録者数	割合	順位	国籍	登録者数	割合
1	ブラジル	2,190	39.28%	23	ケニア	5	0.09%
2	ベトナム	1,073	19.25%	24	スペイン	4	0.07%
3	中国	560	10.04%	25	バングラデシュ	4	0.07%
4	ペルー	419	7.52%	26	チリ	4	0.02%
5	フィリピン	410	7.35%	27	パラグアイ	3	0.05%
6	タイ	249	4.47%	28	パキスタン	3	0.05%
7	韓国	220	3.95%	29	キルギス	3	0.05%
8	インドネシア	140	2.51%	30	オーストラリア	2	0.04%
9	台湾	63	1.13%	31	ドイツ	2	0.04%
10	モンゴル	37	0.66%	32	マレーシア	2	0.04%
11	ネパール	26	0.47%	33	英国	2	0.04%
12	アルゼンチン	26	0.47%	34	トルコ	2	0.04%
13	朝鮮	20	0.36%	35	フランス	1	0.02%
14	アフガニスタン	19	0.34%	36	アルバニア	1	0.02%
15	カンボジア	16	0.29%	37	イラン	1	0.02%
16	米国	12	0.22%	38	カナダ	1	0.02%
17	インド	11	0.20%	39	コロンビア	1	0.02%
18	ボリビア	10	0.18%	40	ルーマニア	1	0.02%
19	ラオス	8	0.14%	41	マダガスカル	1	0.02%
20	ミャンマー	8	0.12%	42	イタリア	1	0.02%
21	スリランカ	7	0.13%	43	シンガポール	1	0.02%
22	メキシコ	6	0.11%	合計		5,575	100.00%

南米出身者が47.6%を占めており、そのうちブラジル国籍が39.3%。

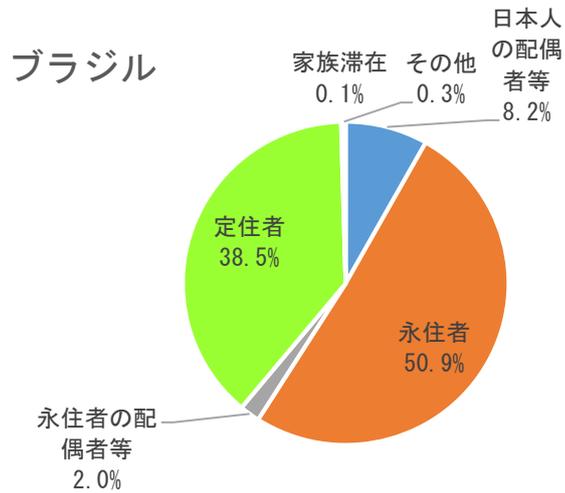
これまで、1位ブラジル、2位中国、3位ベトナム、4位ペルーの順でしたが、2019年12月末にはベトナムが2位になりました。タイ、フィリピン、インドネシアを含め東南アジア出身者が増加しています。

◆上位3か国の在留資格について◆

1位：ブラジル 2,190人

身分による在留資格の人が多いため、永住者、定住者の割合が高く日本の滞在歴も比較的長いのが特徴です。0歳から70代まで幅広い年代となっています。

在留資格	人数	割合
日本人の配偶者等	179	8.2%
永住者	1,114	50.9%
永住者の配偶者等	44	2.0%
定住者	843	38.5%
家族滞在	3	0.1%
その他	7	0.3%



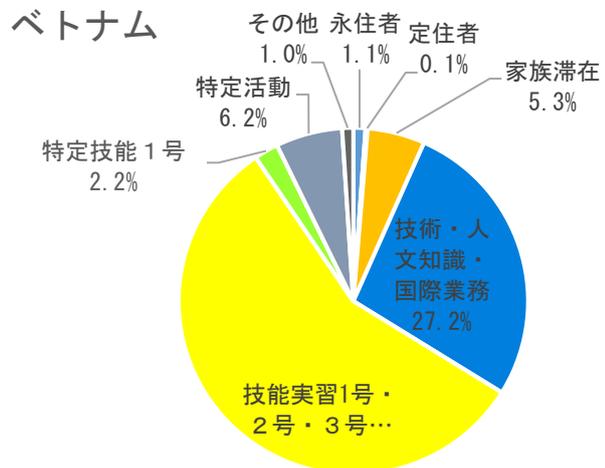
2位：ベトナム 1,073人

技能実習の在留資格の人の割合が高く、1年から5年の滞在期間を経て帰国します。

近年は、在留資格が技術・人文知識・国際業務も多く、家族を呼び寄せているケースも増えています。

20代から40代が大半を占めており、若い世代が多いのが特徴です。

在留資格	人数	割合
日本人の配偶者等	3	0.3%
永住者	12	1.1%
永住者の配偶者等	1	0.1%
定住者	1	0.1%
家族滞在	57	5.3%
技術・人文知識・国際業務	291	27.1%
技能実習1号・2号・3号	607	56.6%
特定技能1号	24	2.2%
特定活動	66	6.2%
その他	11	1.0%

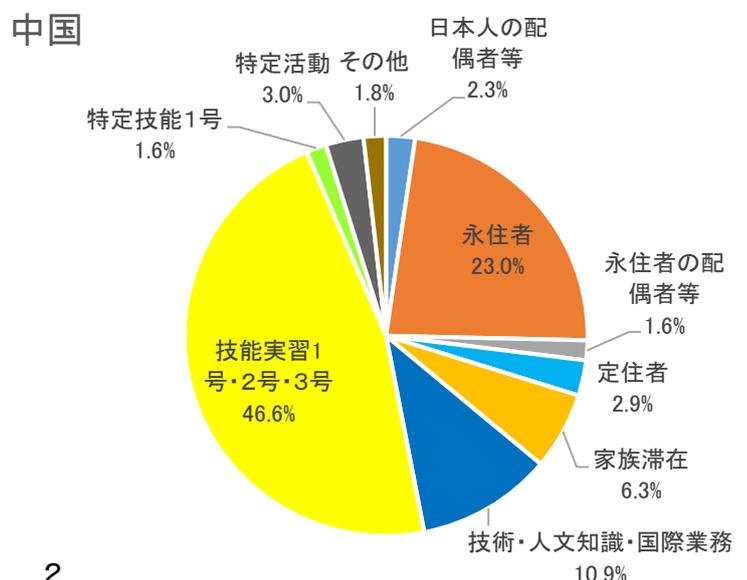


3位：中国 560人

技能実習の在留資格の人が約半数で、年齢層は10代から50代までとなっています。

定住・永住化の傾向もみられ、年齢層も0歳から90代までと幅広いのが特徴です。

在留資格	人数	割合
日本人の配偶者等	13	2.3%
永住者	129	23.0%
永住者の配偶者等	9	1.6%
定住者	16	2.9%
家族滞在	35	6.3%
技術・人文知識・国際業務	61	10.9%
技能実習1号・2号・3号	261	46.6%
特定技能1号	9	1.6%
特定活動	17	3.0%
その他	10	1.8%



(2) 三重県内の市町別外国人住民数の割合 (割合の高い上位10位)

順位	市町名	外国人の割合	外国人住民数	日本人住民数
1	木曾岬町	8.47%	525人	5,670人
2	伊賀市	6.21%	5,575人	84,196人
3	いなべ市	4.69%	2,130人	43,263人
4	鈴鹿市	4.40%	8,764人	190,832人
5	亀山市	4.10%	2,031人	47,525人
6	川越町	4.07%	620人	14,613人
7	四日市市	3.41%	10,618人	300,733人
8	桑名市	3.33%	4,699人	136,592人
9	津市	3.22%	8,894人	267,178人
10	松阪市	2.81%	4,556人	157,442人
三重県計		3.05%	54,854人	1,745,866人

※県ダイバーシティ社会推進課「外国人住民数(外国人登録者数)」

(3) 言語について

国籍でみる公用語は以下のとおりです。

ただし、外国籍であっても母国で日本語を学んだ人や日本で小中学校に通った人もいるので、必ずしも外国語でないと通じないわけではありません。

【国別公用語別上位10位】

言語(公用語)	人数	割合	主な国(市内在住者)
1 ポルトガル語	2,190	39.3%	ブラジル
2 ベトナム語	1,073	19.2%	ベトナム
3 中国語	623	11.2%	中国、台湾
4 スペイン語	473	8.5%	ペルー、アルゼンチン、ボリビアなど
5 英語	433	7.8%	フィリピン、アメリカ、ケニアなど
6 タイ語	249	4.5%	タイ
7 韓国・朝鮮語	240	4.3%	韓国・北朝鮮
8 インドネシア語	140	2.5%	インドネシア
9 モンゴル語	37	3.4%	モンゴル
10 ネパール語	26	0.5%	ネパール
その他	91	1.6%	

5,575

2. 外国人住民の地区別データ（2020年12月末）

（1）住民自治協議会別 外国人住民数が多い上位10位

	名 称	総 数	外国人住民数	日本人住民数	外国人 の割合
1	東部地域住民自治協議会	12,538	1,303	11,235	10.39%
2	小田町住民自治協議会	3,205	525	2,680	16.38%
3	府中地区住民自治協議会	4,218	469	3,749	11.12%
4	上野南部地区住民自治協議会	3,516	308	3,208	8.76%
5	上野西部地区住民自治協議会	3,133	303	2,830	9.67%
6	久米住民自治協議会	3,080	279	2,801	9.06%
7	中瀬地域住民自治協議会	3,102	277	2,825	8.93%
8	河合地域住民自治協議会	3,347	267	3,080	7.98%
9	三田地区住民自治協議会	1,851	237	1,614	12.80%
10	西柘植地域まちづくり協議会	2,699	215	2,484	7.97%

（2）地区別人口構成

	総 数	外国人	日本人	外国人 の割合
上野地区	57,316	4,496	52,820	7.84%
伊賀地区	9,473	473	9,000	4.99%
島ヶ原地区	2,079	19	2,060	0.91%
阿山地区	6,729	300	6,429	4.67%
大山田地区	4,884	121	4,763	2.48%
青山地区	9,290	166	9,124	1.79%
合計	89,771	5,575	84,196	6.21%

（資料：住民基本台帳）

3. 外国人住民等の声（ヒアリング調査等）

●2017年度外国人住民との情報交換会&交流会

(概要)①外国人住民の市政参画や多文化共生に関する課題聴取

②多文化共生サポーターステップアップ研修、情報交換

③在住外国人との交流

【参加者の出身国】ベトナム、タイ、インドネシア、ペルー、中国、日本

計17人（対象：10代～60代、来日2年以上の伊賀市在住者）

●2020年度外国人住民等へのヒアリング調査

(概要)外国人住民協議会第1期から第6期の委員を国籍及び出身国別に聞き取りを行った。

同協議会で話し合ったこと（過去）から現在どのように変化しているかを評価するとともに社会情勢に合わせた提案などについて聞き取った。

自身の経験やコミュニティで問題となっていること、懸念されていることなどについて聞いた。

【参加者の出身国】タイ、インドネシア、ブラジル、ペルー、アルゼンチン、中国、日本

計15人（対象：40代～60代、来日20年以上の伊賀市在住者）

■言語について

どうやって日本語を覚えたのか、日本語が分からない時に苦労したことなど

- 日本語を勉強する場所があったが、仕事の時間と重なることが多かった。当時仕事を休んだ外国人はクビになるという風潮があったため、休むことができなかった。日本語は漫画、テレビなどで覚えた。
- 方言がわかりにくかった（面白かったのですぐに覚えることができた）
- 日本語はテレビ（アニメ）、漫画、カラオケなどで覚えた。
- 日本語は話す機会が多く覚えたが、きちんと学んでいないため読み書きが難しい。今更読み書きがしにくいことを言い出しにくく、書類などを作成するとき苦労する。きちんと学べる場所があったら良かったと思う。
- パートナーは日本語がわからず、会社の送迎でも家の場所を伝えることができず2時間彷徨い、帰ってくることに苦労した。
- 来日した当初は不安がいっぱいで学校に行けなかった。特にトイレに行きたいときに日本語がわからないため何も聞くことができないことを不安に感じ学校へ行けなかった。
- 勉強する時間がない
- 語学学校があればいい

■仕事について、雇用問題・労働環境について

（雇用関係）

■仕事について

- 電話したとき日本名（苗字）を言って日本語で話し面接へ話が進んでいたが、フルネームで教えてくださいと名前を聞かれ、名乗ると外国人はダメですと理由もなく断られた。
- 面接時外国人ということをついたら一瞬ためらわれたが、面接をきちんとしていただき採用された。今では多くの外国人を受け入れてくれていて、自身も通訳などをすることもある。
- 日本語ができない場合、極端に仕事の幅が狭まる。
- 派遣は工場がどうしても多く仕事の幅が狭い気がする。最近は介護職も増えてきた。
- 来日当時は仕事を休めない雰囲気があったそうだ。母が仕事を休めないので12歳の自分が妹の世話や家事をしていたので、学校へ行くことができなかった。母はそのことに対してすごく申し訳ないという感じであった。
- がんばっても昇任できない。
- 昇進することができた。
- 技能実習生の制度の見直しが必要
- 帰国などで休暇を取りたいと思っても職場で認めてくれない

（社会保障）

- コロナで仕事を休んでいるが給与は保障されている。
- コロナ禍でも問題なく仕事できている。
- 有給休暇の制度などを知らなかった。知らないまま転職した。
- 社会保険に入れてくれなかった。今でもそういったところはあるが、そのようなところにはこちらも行かないようにしている。
- 有給休暇の制度があることを知らなかった。誰も言ってくれない。

（職場での人間関係）

- 職場にはいい人が多いし親切にしてくれる。
- 職場には、親切な人もいるけど、いつも怖い顔をしている人もいる。やさしい人が多いけど。
- 日本語学習や困りごとなど案内を仕事場で教えてくれればよい。（市役所は、土日、祝日、夜は休みなので、相談が出来ないため）

（差別について）

- ある時、勤めていた会社が社員用の椅子を新調することになった。社員数が多いため、一度に社員全員分を新調することができなかったようであるが、そこで優先されたのは日本人であった。その時、外国人は差別されていると感じたことがあったとの相談を受けた。
- 職場における日本人と外国人の関係性が日常から良好であれば感じないことが、関係性が良くなくストレスが積み重なると、「外国人だから差別されている」と感じてしまうことがある。

- 会社が自分の出身国に現地法人を設立し、そこへ派遣された（出向した）際に、日本人であれば当然付与される手当を受けられず、待遇の差を付けられた。これは本国出身（本国に家族がいる）であるためではないかと思う。
- 日本では、同等同程度の仕事をしていても、給料に男女差があると聞くと、そのことが日本人と外国人の間にも存在すると感じる。
- 出勤時間が時間前ぎりぎりになった場合、日本人には何も言わないのに、外国人だと指導される。外国人は、日本人より誠実に仕事をしないと、注意や指導を受けやすい傾向がある。
- 自分の会社の話ではないが、職場内で窃盗事件が発生した際に、まず疑われたのは外国人であったと聞いた。これは外国人に対する偏見ではないか。
- 技能実習生の立場で来日しているので、不満を言わず、期間中我慢すれば良いと考える人もいる。他に扱いに不満があっても、外国人であることで会社に対して物申すことを遠慮している。

■ 保育・子育てに関する不安について

（保護者）

- 有給休暇制度があることを知らず仕事を休むとクビという風潮もあったため、子どもの授業参観などに参加できなかった。（今は体制が整ってきている）
- 学校は通訳も含め充実していて本当にありがたい。
- PTAで役を引き受けたいと思っていたが、外国人であることを理由に充てられることはなかった。資料が読めないことを悔しくおもった。
- いじめられても親に心配をかけたくないという気づかいから日本の「大丈夫だよと返答し、本音を言わない文化」がしみついていて、言ってくれない。
- ケンカしたとき「これが日本の文化だ」と言って外国人はなぜか向こうの家に謝罪に行かされるが、日本人から嫌なことをされたときには謝罪はなかった。

（いじめと偏見）

- 子どもがイジメにあい転校を余儀なくされた。解決に向けて加害者側の親と話したいのに話す機会を設けてくれなかった。
- イジメがひどく子どもはよくおなかが痛いと言って仮病を使って学校を休んでいた。今は、他県で生活しているが、伊賀には行きたくないと言っている。
- 髪の毛を黒くしなさいと強要された。証明写真を見せても信じてくれなかった。
- 髪の毛にくせがあり、中学で巻いてないのにまき髪に見えて、「巻いてるやろ、なおしてきなさい」と、巻いてないと答えても初めから巻いていると決めつけて信じてくれなかった。⇒先生によっても違いがある（理解してくれている先生もいる）

（進学）

- 子どもを高校・大学へ進学させたかったため、中学校の進路相談で高校進学の意味を伝えたら、外国人さんは中学卒業したらすぐに働く人もいますがどうですかと意思に反して就職を勧められた。
- 半年以上不登校の外国籍の高校生に対して、事情や本人の気持ち等を聴くことなく、「休学届」の提

- 出だけを求めて帰っていった教師がいた。これを外国人に対する差別と捉えるべきかどうか分からないが、生徒に対するサポートや配慮が足りないのではないかと感じた相談があった。
- 高校は義務教育ではないためからか、小・中学校の時ほど、ケアが行き届いていない傾向があるように思う。

(アイデンティティ)

- イジメが多かった。子どもは「日本人ならイジメられない」といって「日本人になりたい」と言っていた。自分が下の存在であるという意識があったようだ。何とか自分のルーツをプラスに考えられるようにしたいと思っている。
- 子どもは特に大変。自分は日本人と思っているが見た目のせいで日本でも外国人扱いされる。母国に行っても日本語しかわからず、外国人扱いされる。外国人でいることは日本でも母国でもしんどいことだ。

■医療・福祉・保育について

(年金制度)

- 年金や保険制度がわかりにくい。説明会などがあると嬉しい。
- こども（学生の場合など）の年金など猶予があるがそういった制度や手続きがわかりにくい。
- 年金や保険関係のはがきが届いたが意味が分からない。子どもに聞いた。

(介護保険)

- 介護保険に加入する際、なんだかわからないうちに加入していた。どのような制度でなぜ支払うのかわからないまま払っている。勉強の機会が欲しい。

(社会保障)

- 制度がわかりにくい。傷病手当がわからなかったが、教えてもらいながらなんとか申請できた。制度や手続きがもう少しわかりやすいと嬉しい。
- 外国人同士の夫婦だと不安がいっぱい。子どもが生まれたときや様々な段階においての各種制度や手続きがわからない。

(その他)

- 日本で長らく生活しているのに、外国人であることを理由に受けられない公的支援もあり、基本的に本国の支援制度等の活用を迫られる。制度面で外国人が冷遇されていると感じることもある。
- 定住外国人の高齢化が進んでいる中で、保険や年金、介護などの福祉制度のことをやさしく説明してもらえる窓口を設置する等の配慮が必要になってきている。また、年金が無い又は少額である等により将来の生活不安を抱く外国人が増えてくることが懸念される。
- 定年を迎えたときどうなるか心配である。

■住まいについて

- アパートやマンションは借りられるところが限られている。不動産屋さんに行くと「大家さんがだめなんですよ」とか「保証人がら人ほしい」などと言われと断られるところが多い。また、貸してくれこる大家さんも限られているので、外国人の中で情報共有され、どうしても外国人が多く集まる物件として住むところが集中してしまう。
- 駐車場を借りたくて「空いてますか」と尋ねたところ、「空いてます」という返事であったが名前を聞かれ外国人であることがわかると断られた。
- 自治会に加入しているが、役をできると引き受けたにも関わらず最初から無理と決めつけられて嫌な思いをした。
- 自治会にはお金を払っているが参加していない。組長は回ってこないが書類は回ってくる。配慮してくれているのかもしれないとうれしく思う。
- 伊賀は住みやすいと思う。

■差別や偏見について

(差別)

- 結婚時大反対されたが、当時妊娠していたため仕方なく受け入れてくれた。
- 何もしていないのに警察から頻繁に職務質問を受ける。初めから疑われているような感じに色々聞かれる。外国人＝悪者扱いされているように感じる。人間として扱ってほしい。
- 自身のルーツについて地域の人に言っていないのになぜか知られていた。(身元調査があったのか)
- 事故に遭ったとき相手に免許証見せてとか保険証見せてとか必要以上に疑われたように感じた。また、そのとき、保険はどうせ入っていないだろうと初めから決めつけられた。
- トイレの使用時等公共施設でのマナーが悪いと、外国人ではないかと疑われる。
- 日本人を優遇しているまたは外国人を差別しているといった意図はなくても、被差別感情を起こさせないための配慮(事前に説明して理解してもらおう等)が必要と思う。
- 文化や価値観のちがいが理解できないことによって、そこに差別や偏見が生まれる。よって、行政や関係団体等が主導で日本人と外国人がもっと対話できる機会のつくることが重要である。

■日常生活(文化の違いや、外国人に対する対応について)

- こどもは日本人特有の国民性が定着しているが親はそうではないため、考え方に差がある。
- 子どもが日本人の中に入りたがらない。マラソン大会に参加させたいが、どうすればよいか。
- 警察で外国人が免許更新に際しての対応が悪い。翻訳してほしい。
- ベトナム、日本人の文化の違いは、ベトナム人はよくパーティーをする。9時までで終わっているのに、近所の人が警察を呼んだ。
- 部屋で友達と話しているだけで、隣の人にドンドンとされた。
- 伊賀弁がわからなかった。
- 病院の先生の話がとても速かったけど、看護師さんが優しく細かく教えてくれた。
- 病気の時、助ける人が少ない

■コミュニケーションについて

- 知り合いをいっぱい作りたいと思っている。
- 災害時は地域で外国人専用の連絡網ができています。他の地域やPTAなどでもできればいいと思う。
- 日本人と会話中、日本独特の「阿吽の呼吸」が分からず、失礼な物言いになったことがある。
- 日本人ともっと話したい。
- 日本人と交流できるイベントが会ったら参加したい。
- 10年母の母国で過ごしたが、今は日本人みたいになりたい。日本の生活習慣（精神的なこと）などを知りたい。
- 外国人と日本人の相互理解を図れる場があればいい。
- ペルーやブラジルの事をもっと知ってほしい。文化紹介など。
- 学校に行かない若いことが集まれる場があればいい。

■伊賀市について

- 静か
- 町がきれい
- お米を作っているところ、故郷を思い出す
- 食べ物がいい（ラーメン、たこ焼き、そば etc）
- 文化が良い（祭りとか）
- 忍者がおもしろい
- 上野城や松尾芭蕉など歴史に関するものがある
- 伊賀牛がおいしい
- 外国人が多い（away 感がない）
- 伊賀は大阪、京都、名古屋の真ん中にあるので、不便なようだけど、便利かも
- 公共の場にごみ箱が少ない
- 遊ぶところが少ない。大阪や京都へ行く
- 買い物の時、お店が少ない。大阪か名古屋に行く。特に電気製品が安くいろいろある。
- wifi が少ない
- 学校に行かない若い人が集まれる場があればいい。

2019 年度 伊賀市外国人住民アンケート調査報告書(抜粋)

この調査は、2年ごとに外国人住民の生活や就労の実態把握し、調査結果を踏まえて、当市の多文化共生施策の推進に繋げていくために行っています。調査結果は、市のホームページで公開しています。

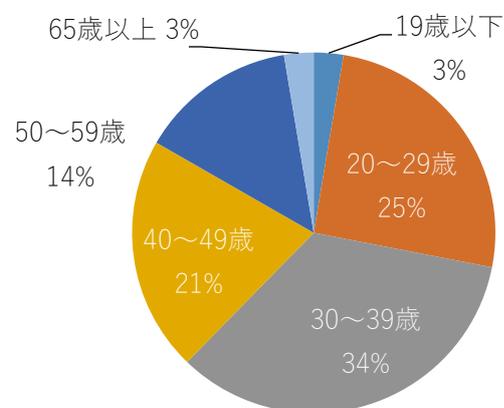
URL: <https://www.city.iga.lg.jp/cmsfiles/contents/0000005/5395/2019houkokusho.pdf>

- 調査期間 2020年3月1日～4月10日
- 対象者 2020年2月1日現在、伊賀市に在住する外国人住民(18歳以上の人を対象)
- 調査方法 ①外国語版情報誌配布先企業へ郵送で調査票の配布・回収
②市民生活課窓口で調査票の配布・回収
- 回答数 114人

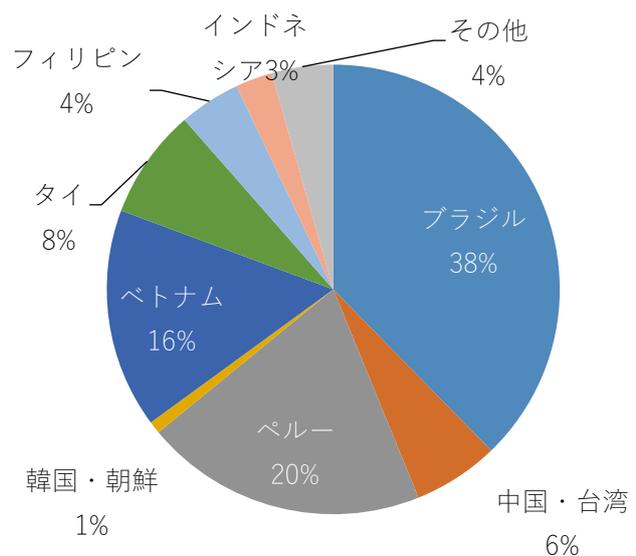
調査結果及び分析

【1. あなた自身のことについて】

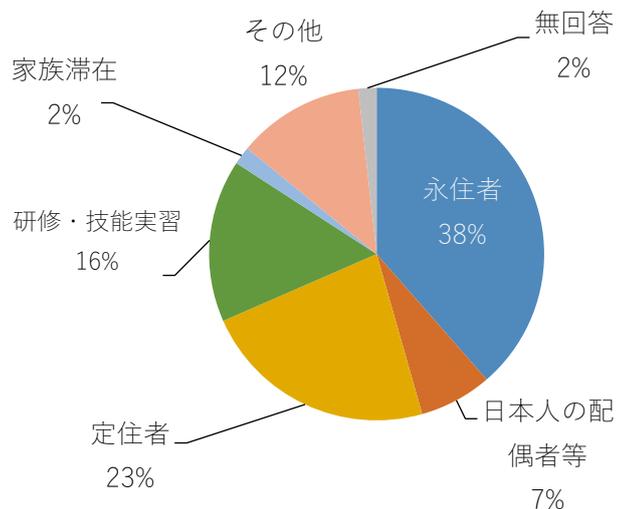
年齢	回答数	割合%
19歳以下	3	2.6%
20～29歳	29	25.4%
30～39歳	39	34.2%
40～49歳	24	21.1%
50～59歳	16	14.0%
60～64歳	0	0.0%
65歳以上	3	2.6%
無回答	0	0.0%
計	114	100.0%



国籍	回答数	割合%
ブラジル	43	37.7%
中国・台湾	7	6.1%
ペルー	23	20.2%
韓国・朝鮮	1	0.9%
ベトナム	18	15.8%
タイ	9	7.9%
フィリピン	5	4.4%
インドネシア	3	2.6%
ボリビア	0	0.0%
アルゼンチン	0	0.0%
その他	5	4.4%
計	114	100.0%



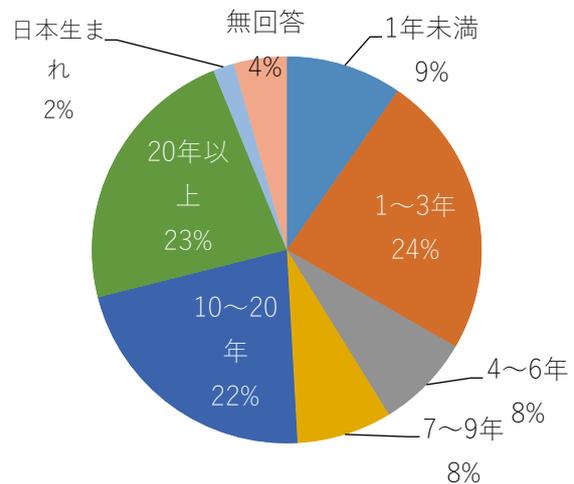
在留資格	回答数	割合%
永住者	44	38.6%
日本人の配偶者等	8	7.0%
永住者の配偶者等	0	0.0%
定住者	26	22.8%
特別永住者	0	0.0%
研修・技能実習	18	15.8%
家族滞在	2	1.8%
その他	14	12.3%
無回答	2	1.8%
計	114	100.0%



・「永住者」(38.6%)が最も多い。

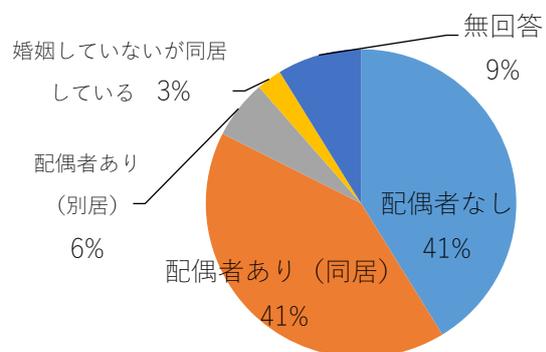
・就労制限がない「永住者・定住者・日本人の配偶者等・永住者の配偶者等」の回答率は、68.4%で「研修・技能実習」からの回答は 15.8%。

日本での滞在年数(通算)	回答数	割合%
1年未満	11	9.6%
1～3年	27	23.7%
4～6年	9	7.9%
7～9年	9	7.9%
10～20年	25	21.9%
20年以上	26	22.8%
日本生まれ	2	1.8%
無回答	5	4.4%
計	114	100.0%



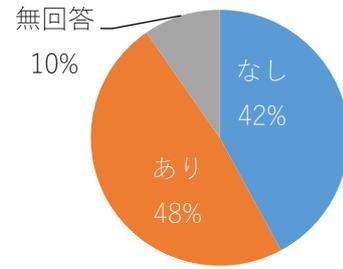
・「1～3年」(23.7%)が最も多く、続いて「20年以上」(22.8%)、「10～20年」(21.9%)、「1年未満」が(9.6%)。「1～3年」は技能実習生が多く含まれており、その他の在留資格を持つ外国人は滞在期間が比較的長い年数となっている。

配偶者の有無	回答数	割合%
配偶者なし	47	41.2%
配偶者あり(同居)	47	41.2%
配偶者あり(別居)	7	6.1%
婚姻していないが同居している	3	2.6%
無回答	10	8.8%
計	114	100.0%



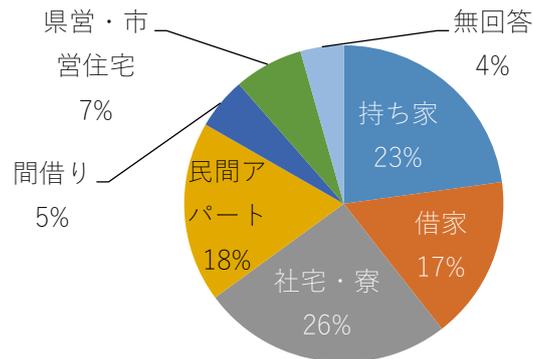
・同居や配偶者があると答えた人は 49.9%おり、単身世帯より上回っている。

子どもの有無	回答数	割合%
なし	48	42.1%
あり	55	48.2%
無回答	11	9.6%
計	114	100.0%



・今回の調査では、配偶者なしと子どもなしの数がほぼ同数であり、子育て家庭による回答を多く得られた。

現在の住居	回答数	割合%
持ち家	26	22.8%
借家	19	16.7%
社宅・寮	29	25.4%
民間アパート	21	18.4%
間借り	6	5.3%
県営・市営住宅	8	7.0%
無回答	5	4.4%
計	114	100.0%



・「持ち家」率が22.8%で「借家」が16.7%であることから、一軒家に住んでいる割合も高く、地域の一員として居住している。

職業	回答数	割合%
自営業	3	2.6%
正社員(無期雇用)	35	30.7%
正社員(有期雇用)	11	9.6%
派遣社員	28	24.6%
アルバイト	4	3.5%
研修生・技能実習生	18	15.8%
学生	3	2.6%
無職(求職中)	6	5.3%
無職(高齢・傷病・妊婦 等)	1	0.9%
無職(専業主婦・主夫)	2	1.8%
その他	1	0.9%
無回答	2	1.8%
計	114	100.0%

・「研修生・技能実習生」(15.8%)を除き、「派遣社員」(24.6%)、「正社員(有期雇用)」(9.6%)、「正社員(無期雇用)」(30.7%)が多くを占め、不安定な雇用条件のもと働いていることがわかる。

【2. 伊賀市のことについて】

住み始めた一番の理由(1つだけ)	回答数	割合%
仕事があったから	55	48.2%
家族・友人がいたから	29	25.4%
友人・知人に紹介されたから	8	7.0%
家賃が安いから	0	0.0%
交通や生活が便利だから	4	3.5%
自分では決めていない	17	14.9%
無回答	1	0.9%
計	114	100.0%

- ・「仕事があったから」(48.2%)が最も多く、次いで「家族・友人がいたから」(25.4%)となっている。
当市には工場が多く、働く場が多いため仕事を求めて、転入してくる外国人住民が多い。
また、仕事だけでなく親戚や友達が多く居住していることも住み始める理由として比率が高い。

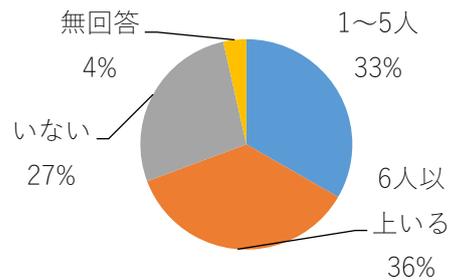
伊賀市に住んで良いと感じること(3つまで)	回答数	割合%
自然(山、水、食べ物)が豊富	48	23.6%
家賃・物価が安い	14	6.9%
交通(仕事・買い物)が便利	29	14.3%
仕事のチャンスが多い	19	9.4%
子育て支援・子どもの教育が良い	15	7.4%
多文化共生施策(通訳・翻訳・相談・情報提供・イベント)が良い	17	8.4%
文化活動やレジャーの機会が多い	2	1.0%
病気の時(病院)の対処が良い	5	2.5%
友だちや周囲の人が親切	28	13.8%
特になし	18	8.9%
その他	8	3.9%
計	203	100.0%

- ・前回調査と同様、「自然(山、水、食べ物)が豊富」が最も多かった。
- ・「交通(仕事・買い物)が便利」(14.3%)、「友だちや周囲の人が親切」(13.8%)が10%を超えている。

伊賀市に住んで、困ることや嫌なこと(3つまで)	回答数	割合%
自然(山、水、食べ物)が悪い	7	5.1%
家賃・物価が高い	32	23.2%
交通(仕事・買い物)が不便	15	10.9%
仕事が見つからない	3	2.2%
子育て支援・子どもの教育が良くない	1	0.7%
多文化共生施策が良くない	3	2.2%
文化活動やレジャーの機会が少ない	11	8.0%
病気の時(病院)の対処が良くない	8	5.8%
友だちや周囲の人が冷たい	3	2.2%
特にない	44	31.9%
その他	11	8.0%
計	138	100.0%

【3. 地域とのつながりについて】

日本人の友だちはいますか？	回答数	割合%
1～5人	38	33.3%
6人以上いる	41	36.0%
いない	31	27.2%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%



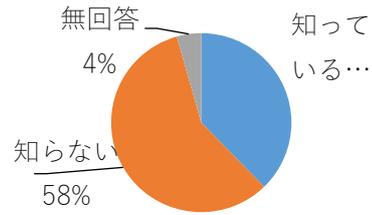
・「6人以上いる」(36.0%)が最も多く、69.3%の外国人住民が日本人と交流していることが分かる。

近くに住む日本人とどのようなつき合いがありますか？	回答数	割合%
あいさつをする程度	65	57.0%
日常生活の話(世間話)をする	17	14.9%
困ったときに助け合っている	6	5.3%
家族同様に親しく付き合っている	3	2.6%
付き合いがない	21	18.4%
その他	0	0.0%
無回答	2	1.8%
計	114	100.0%

・半数以上が「あいさつをする程度」(57.0%)にとどまっている。

・「付き合いがない」は、18.4%。

地域の自治会を知っていますか？	回答数	割合%
知っている	43	37.7%
知らない	66	57.9%
無回答	5	4.4%
計	114	100.0%



・持ち家があると回答した人が 26 人(22.8%)であり、自治会を「知っている」が 21 人(80.8%)となっているため、家を持つようになって自治会の存在を知るようになることが分かる。

地域で、どのような交流をしたいと思いますか？(複数可)	回答数	割合%
となり近所の人と親しくしたい	26	18.6%
自分たちの文化を紹介したい	17	12.1%
日本の文化や習慣などを教えてほしい	26	18.6%
ボランティア活動に参加したい	12	8.6%
祭りなど地域の行事に参加したい	14	10.0%
趣味のサークルに参加したい	12	8.6%
交流はしたくない	8	5.7%
その他	25	17.9%
計	140	100.0%

・「となり近所の人と親しくしたい」(18.6%)、「日本の文化や習慣などを教えてほしい」(18.6%)に加えて「ボランティア活動に参加したい」(8.6%)といった日本文化や社会に関心を持っている外国人住民が多くいることがわかった。
 ・「地域交流はしたくない」といった意見も 5.7%あった。

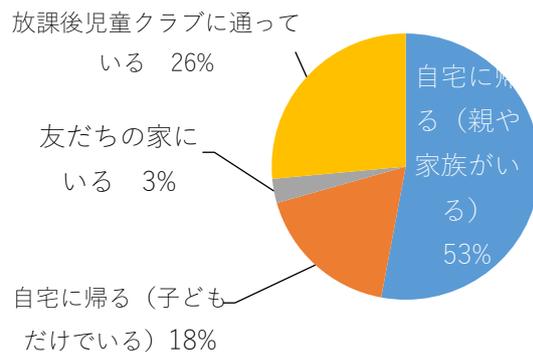
【4. 子育てのことについて】

※子どもがいる(いた)人のみ回答

日本の保育園・幼稚園・小学校・中学校に通っています(通っていました)か？	回答数	割合%
通っている (通っていた)	43	87.8%
通っていない (通ってなかった)	6	12.2%
ブラジル人学校・民族学校などに通っている (通っていた)	0	0.0%
計	49	100.0%

・「通っている(通っていた)」が 87.8%であった。
 ・通っていないと回答したものについては、保育所に入所できなかった場合と家庭内保育ができる環境がある場合とがある。

放課後は何をしていますか？	回答数	割合%
自宅に帰る(帰った) (親や家族がいる)	18	52.9%
自宅に帰る(帰った) (子どもだけにいる)	6	17.6%
友だちの家にいる(いた)	1	2.9%
放課後児童クラブに通っている (通っていた)	9	26.5%
計	34	100.0%



・70.5%が自宅へ帰る(帰った)が、このうち 17.6%が子どもだけの家でいる(いた)と回答している。

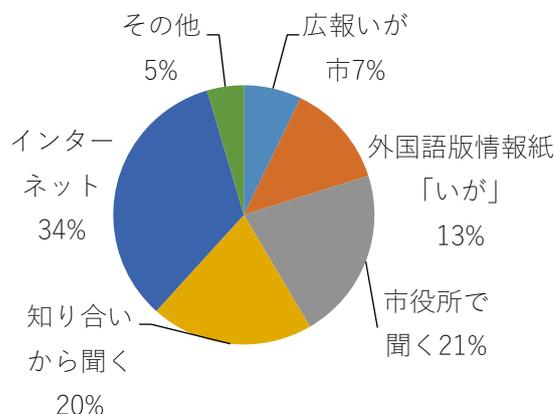
子どものことで一番心配なことはありますか(ありました)か？	回答数	割合%
学力のこと	12	15.6%
進路(進学・就職)のこと	16	20.8%
友人関係のこと	14	18.2%
子どもと先生とのコミュニケーションのこと	9	11.7%
親と先生とのコミュニケーションのこと	12	15.6%
親子のコミュニケーションのこと	3	3.9%
心配なことはない(なかった)	7	9.1%
その他	4	5.2%
計	77	100.0%

・保護者の心配ごとは、学力・進路で 36.4%となった。

・「心配なことはない(なかった)」と回答したものは、9.1%であった。

【5. 情報の入手について】

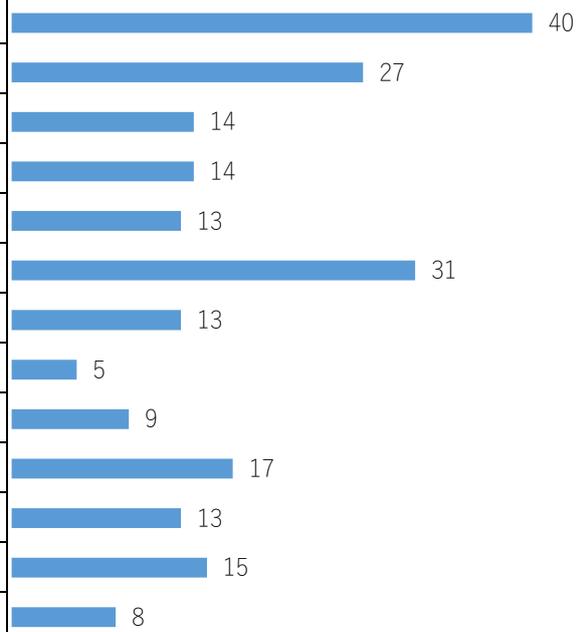
生活にかかわる情報をいつもどこから入手していますか？	回答数	割合%
広報いが市	11	7.1%
外国語版情報紙「いが」	20	13.0%
市役所で聞く	33	21.4%
知り合いから聞く	31	20.1%
インターネット	52	33.8%
その他	7	4.5%
計	154	100.0%



・情報収集の方法としては、やはり市役所や知人からといった、耳からの情報に頼る傾向が多い。(41.5%)

次いで多いのが、「インターネット」(33.8%)。スマートフォンの普及により多言語情報が様々なサイトから収集可能となった。

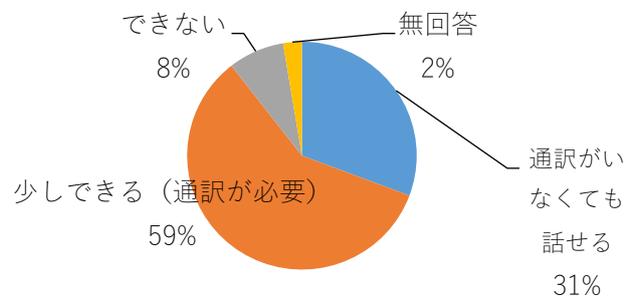
どのような情報がほしいですか？	回答数	割合%
災害など緊急時の対応の情報	40	18.3%
生活のルール(法律)の情報	27	12.3%
行政サービスの情報	14	6.4%
相談窓口の情報	14	6.4%
地域・日本人との交流の情報	13	5.9%
日本語学習の情報	31	14.2%
仕事・就職の情報	13	5.9%
住宅の情報	5	2.3%
在留資格(入国管理局)の情報	9	4.1%
保険・医療・福祉の情報	17	7.8%
子育て・教育の情報	13	5.9%
イベント・レジャーの情報	15	6.8%
その他	8	3.7%
計	219	100.0%



- ・上記の行政に関する情報は、外国語版情報紙に随時掲載しているので周知が必要と考えられる。
- ・インターネットによる情報提供は、市ホームページが多言語対応していることや多文化共生センターのホームページ、facebook で多言語発信していることをさらに周知していく。三重県の多言語情報サイト mieinfo などを見ている人も多い。

【6. 日本語能力について】

日本語を話せますか？	回答数	割合%
通訳がいなくても話せる	35	30.7%
少しできる(通訳が必要)	67	58.8%
できない	9	7.9%
無回答	3	2.6%
計	114	100.0%



アンケート調査では、「できない」が7.9%であった。

- ・長期で日本に滞在している人や日本の学校に通った経験のある外国人住民も多くなってきており、全く話せない人の割合は低い。

日本語を読んだり書いたりできますか？	回答数	割合%
翻訳がなくてもできる	18	15.8%
少しできる(ひらがなができる)	68	59.6%
できない	17	14.9%
無回答	11	9.6%
計	114	100.0%

- ・日本語を話せない人の割合(7.9%)よりも読み書きができない割合(14.9%)の方が高く、文字習得が難しいことが分かる。

日本語を勉強したいですか？	回答数	割合%
いま勉強している	33	28.9%
すぐにも勉強したい	9	7.9%
機会があれば勉強したい	61	53.5%
考えていない	7	6.1%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

・「機会があれば勉強したい」が、53.5%と約半数を占めている。実習生、研修生は入国前後に日本語学習の機会があるが、それ以外で入国した外国人は日本語学習よりも就労を優先せざるを得ないため、学習意欲はあるものなかなか勉強できない現状であることが分かる。

【7. 人権問題のことについて】

外国人であることで差別を受けたと感じたことがありますか？	回答数	割合%
ある	36	31.6%
ない	62	54.4%
分からない	7	6.1%
無回答	9	7.9%
計	114	100.0%

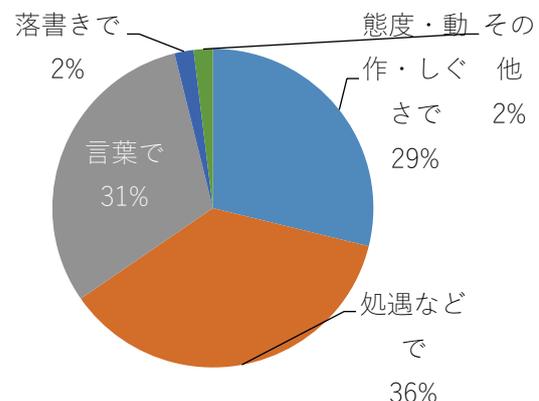
※「ある」と答えた方への質問

いつ、どこで、どのような差別を受けたと感じましたか？(1番忘れられないもの)

いつ	回答数	割合%
1～3年以内	15	41.7%
4～6年以内	4	11.1%
7～9年以内	7	19.4%
10年以上前	8	22.2%
無回答	2	5.6%
計	36	100.0%

どこで	回答数	割合%
学校	2	4.8%
会社	17	40.5%
行政機関	3	7.1%
お店	13	31.0%
地域(近所)	2	4.8%
その他	2	4.8%
無回答	3	7.1%
計	42	100.0%

どのような	回答数	割合%
態度・動作・しぐさで	15	28.8%
処遇などで	19	36.5%
言葉で	16	30.8%
手紙や電話で	0	0.0%
落書きで	1	1.9%
その他	1	1.9%
計	52	100.0%



その時、誰かに相談しましたか	回答数	割合%
家族や親戚に相談した	4	10.8%
友人や知人に相談した	11	29.7%
市役所に相談した	1	2.7%
誰にも相談しなかった	19	51.4%
その他	2	5.4%
計	37	100%

- ・外国人を理由とした差別は、31.6%の人が経験しており、会社や地域、店や学校など生活に関係した場面で多く見られる。アンケート回答者のうち通訳が必要な人の割合が 66.7%おり、差別発言より態度や動作、しぐさによる差別体験が多い。また、職場などでの処遇の差別も存在することがわかる。
- ・相談については、窓口の周知や日本語の問題もあり、「誰にも相談しなかった」と回答した人が半数以上いた。

【8. 将来の予定について】

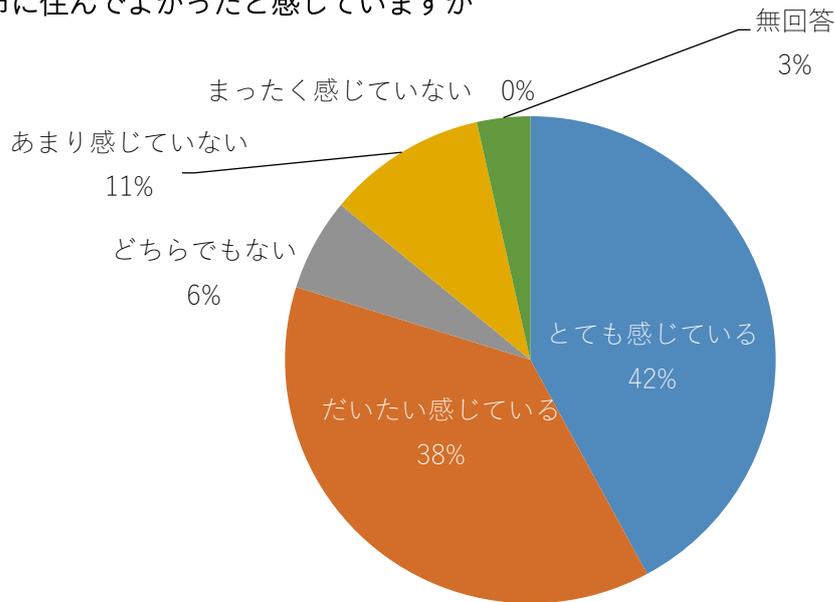
帰国を考えていますか？	回答数	割合%
3年以内に帰国する	14	12.3%
勉強や仕事などの区切りがいたら帰国したい(帰国する)	13	11.4%
日本に住み続けたい(住み続ける)	71	62.3%
日本国籍を取りたい	12	10.5%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

- ・期限の定めがない又は更新可能な在留資格を持っている人は、今後も日本に住み続けたいと考えている。
- ・日本での生活を継続することを想定して居住している人は回答者の 72.8%であった。

【9. 生活の満足度について】

伊賀市に住んで良かったと感じていますか？	回答数	割合%
とても感じている	48	42.1%
だいたい感じている	43	37.7%
どちらでもない	7	6.1%
あまり感じていない	12	10.5%
まったく感じていない	0	0.0%
無回答	4	3.5%
計	114	100.0%

伊賀市に住んでよかったと感じていますか



・住んでよかったと感じているものは、「とても感じている」と「だいたい感じている」を合わせると79.8%となった。前回(2017年度)調査より、0.2%減った。

	2015年度調査	2017年度調査	2019年度調査
回答者数	116人	131人	114人
【満足度】			
とても感じている	32.8%	35.9%	42.1%
だいたい感じている	41.4%	44.3%	37.7%
どちらでもない	18.1%	9.9%	6.1%
あまり感じていない	4.3%	3.1%	10.5%
まったく感じていない	2.6%	0.0%	0.0%
無回答	0.9%	6.9%	3.5%

2020(令和2)年度
伊賀市まちづくりアンケート
(市民意識調査)
調査結果報告書

「多文化共生」について

1. 調査仕様

- (1)調査地域 伊賀市全域
- (2)調査対象 市内在住、在勤、在学、または市外に在住で伊賀市に関わりがある満16歳以上の方
- (3)周知方法 回覧板及び住民基本台帳に登録されている方から無作為に5,000人抽出しダイレクトメールの送付等
- (4)調査方法 Web方式(一部質問用紙調査)

4. 調査期間 2021(令和3)年1月29日～2021(令和3)年2月22日

5. 回収数 845件

① あなた自身について【複数回答可】

N 値 = 845

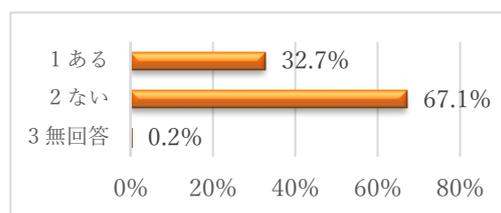
	回答数	比率
1 日本人	837	97.9%
2 日本以外の国籍	6	0.7%
3 家族の中に外国出身者がいる	7	0.8%
4 無回答	5	0.6%



② 伊賀市の外国人と付き合いがありますか？

N 値 = 845

	回答数	比率
1 ある	276	32.7%
2 ない	567	67.1%
3 無回答	2	0.2%



③ どこで知り合いましたか？ 【②で「1」と回答された方 複数回答可】

n 値 = 276

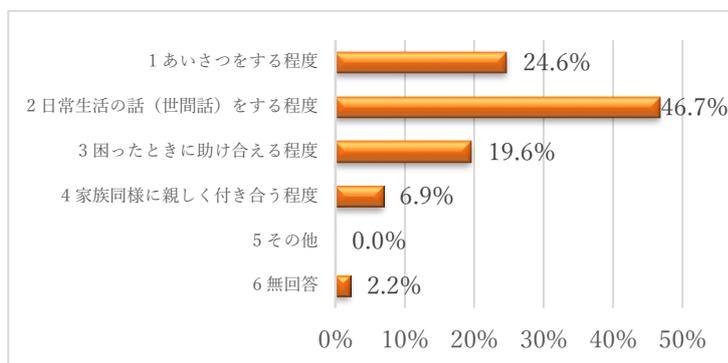
	回答数	比率
1 近所の人	95	34.4%
2 同じ職場	120	43.5%
3 幼稚園、保育園、学校の関係者	89	32.2%
4 趣味などを通じた知り合い	46	16.7%
5 その他	19	6.9%



④ どのような付き合いがありますか？ 【③で回答された方】

n 値 = 276

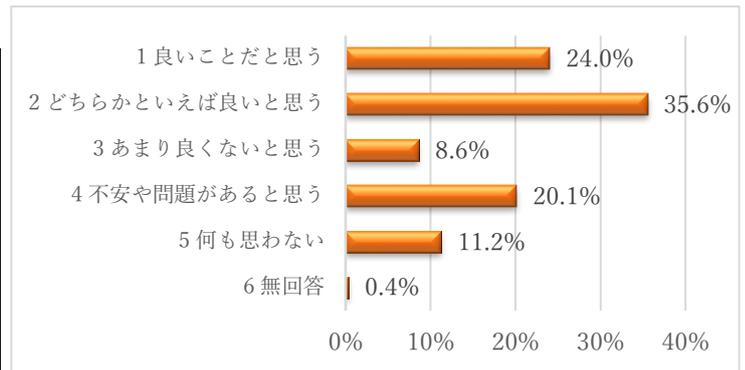
	回答数	比率
1 あいさつをする程度	68	24.6%
2 日常生活の話（世間話）をする程度	129	46.7%
3 困ったときに助け合える程度	54	19.6%
4 家族同様に親しく付き合う程度	19	6.9%
5 その他	0	0.0%
6 無回答	6	2.2%



⑤ 伊賀市の外国人住民が増えることについてどう思いますか？

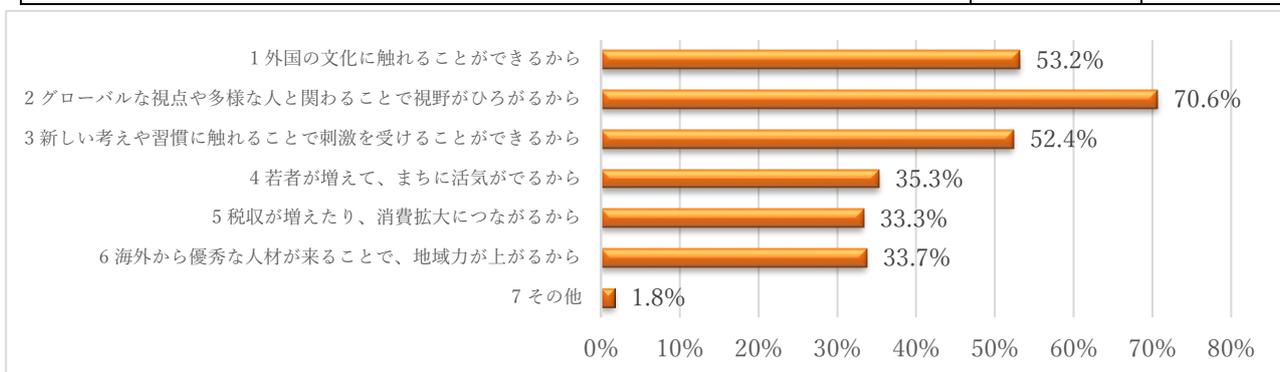
N 値=845

	回答数	比率
1 良いことだと思う	203	24.0%
2 どちらかといえば良いと思う	301	35.6%
3 あまり良くないと思う	73	8.6%
4 不安や問題があると思う	170	20.1%
5 何も思わない	95	11.2%
6 無回答	3	0.4%



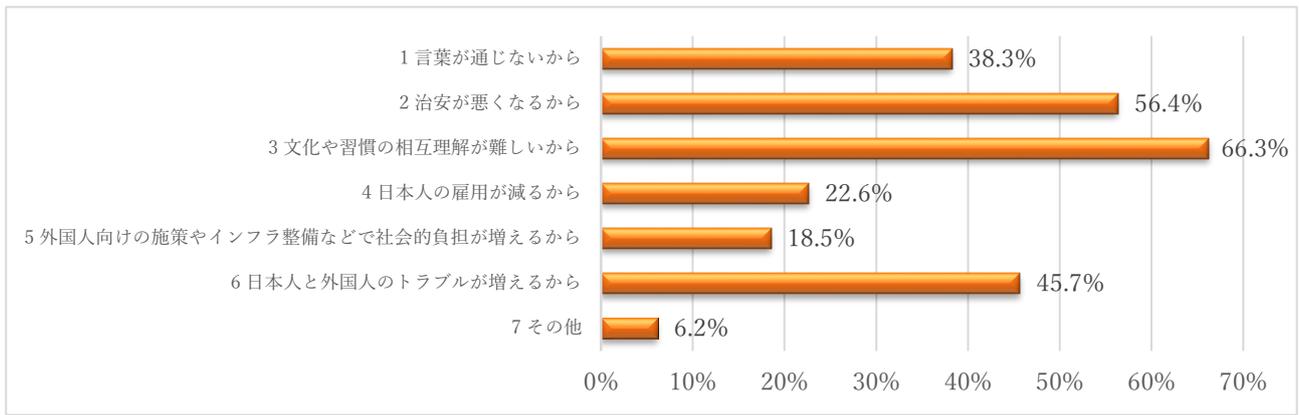
⑥ その理由は何ですか？【⑤で「1」または「2」と回答された方 複数回答可】 n値=504

	回答数	比率
1 外国の文化に触れることができるから	268	53.2%
2 グローバルな視点や多様な人と関わることで視野がひろがるから	356	70.6%
3 新しい考えや習慣に触れることで刺激を受けることができるから	264	52.4%
4 若者が増えて、まちに活気がでるから	178	35.3%
5 税金が増えたり、消費拡大につながるから	168	33.3%
6 海外から優秀な人材が来ることで、地域力が上がるから	170	33.7%
7 その他	9	1.8%



⑦ その理由は何ですか？【⑤で「3」または「4」と答えた方 複数回答可】 n値=243

	回答数	比率
1 言葉が通じないから	93	38.3%
2 治安が悪くなるから	137	56.4%
3 文化や習慣の相互理解が難しいから	161	66.3%
4 日本人の雇用が減るから	55	22.6%
5 外国人向けの施策やインフラ整備などで社会的負担が増えるから	45	18.5%
6 日本人と外国人のトラブルが増えるから	111	45.7%
7 その他	15	6.2%



⑧ 相互関係を深めるために地域でどのような交流をしたいと思いますか？【複数回答可】 N 値＝845

	回答数	比率
1 となり近所の人と親しくしたい	435	51.5%
2 外国の文化を紹介したい	146	17.3%
3 日本の文化や習慣などを教えたい又は教えてほしい	338	40.0%
4 ボランティア活動や地域の行事に参加したい又は参加してもらいたい	298	35.3%
5 趣味のサークル活動に参加したい又は参加してもらいたい	193	22.8%
6 交流はしたくない	77	9.1%

